

会長講演

四肢難治性潰瘍に対する高気圧酸素療法 について

八木博司

(福岡八木厚生会病院)

昭和45年1月から昭和60年12月末までの15年間に当施設で取扱った高気圧酸素による治療症例(以下 OHP 療法例と略)は1,188例で14,252回の治療を行った。とくに第2種装置を導入した昭和57年10月以降、症例数の増加と共に治療回数は急増し、症例も多様化した。これら症例の中から本日は四肢の難治性潰瘍を取上げて報告する。

四肢の難治性潰瘍はその名の如く難治性で、その治療にあたっては医師・患者共に難渋する場合が少なくない。本症は大別すると ①阻血性潰瘍(動脈性)、②鬱血性潰瘍(静脈性)、③動静脈瘻性潰瘍といった血管系の障碍に起因する潰瘍のほか、④外傷、⑤悪性腫瘍、その他に分類でき、その治療は基礎疾患によって異なるが、潰瘍そのものに対する治療は同じである。

私共は本報告において、これらグループの代表症例を供覧し、私共がたどってきた足跡をふりかえりながら OHP 療法の効果と本症に対する治療の原則について私見を述べてみたいと思う。